

研究の概要

【学校教育目標】

夢や希望の実現に向かって
ねばり強く歩む児童の育成

【育成したい資質能力】

思考力（物事の間係を捉える力，理由を付けて順序よく考える力）
表現力（目的や意図に応じて，自分の考えが伝わるように工夫して表現する力）
主体性（自分で考え行動する力）
共感力（相手を受け入れる力）

「思考力」の育成

思考力が高まった児童

自分の考えを表現することが
できる授業展開の工夫

教材の特徴に応じた言語活動の充実

国語科における説明的文章の指導

自ら学ぶ体制づくり（複式学級）

- 学習リーダーの育成
- 学習のゴールと道筋共有
- 評価基準の共有
- 振り返りの充実（メタ認知）
- 考えを書かせるノート指導
- 個人の伸びを重視する評価
- 児童の発言を深める発問

十日市中学校区での取組

【パワーアップ週間】

十日市中学校区は，学力向上推進地域事業の指定をうけ今年で2年目になります。

一人ひとりが見通しをもって学習する力を育てるために，本校で行っている取組の一つが，パワーアップ週間です。中学校の試験期間に合わせて，児童自身が家庭学習の計画を立て学習しています。

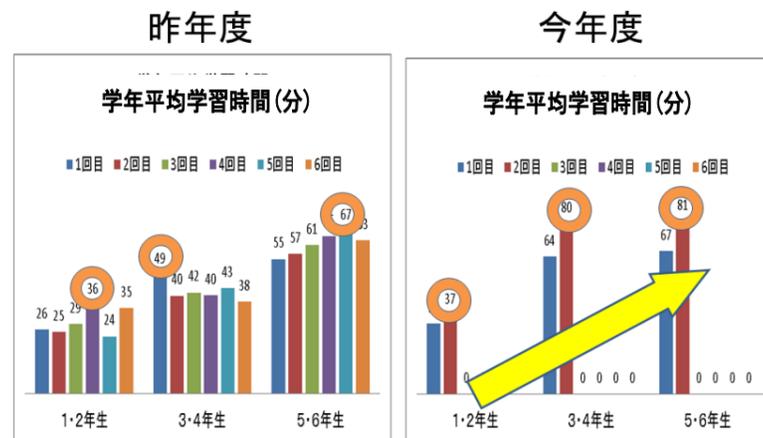


図2 パワーアップ週間学年平均学習時間 前年度との比較

図2は，前年度の学年平均学習時間と今年度の学年平均学習時間を比較したものです。どの学年も，前年度の最高平均学習時間を上回りました。このことから，児童に家庭学習の習慣が身に付きつつあるといえます。また，第2回のパワーアップ週間では，さらに学習時間が増え，学習内容は工夫が見られるようになりました。

【自主学习ノート】

粟屋小学校では自主学习ノートに取り組んでいます。そして年5回，全校児童が授業で活用したノートの交流会を行います。友達にノートを見せ，相互評価し合うことにより，さらに意欲的に自主学习に取り組むことができるようになりました。また，選ばれたノートは廊下にモデルノートとして掲示し，児童の意欲をさらに向上させる工夫をしています。



令和元年度

研究紀要

【研究主題】

「思考力」を育む国語科授業の創造
～説明的文章の指導を通して～

令和元年10月4日（金）

三次市立粟屋小学校

具体的実践

【自分の考えを表現することができる授業展開の工夫】

児童が「なぜかな」「どのようにすれば読み取れるかな」と思うことで、学習に必然性が生まれます。『説明文の10の観点』を活用して、児童が主体的に説明文を読み、付いた力を活かして言語活動ができるよう授業展開を工夫します。

⑩	⑨	⑧	⑦	⑥	⑤	④	③	②	①
比較されているもの・こと	くすのき	一文で表す	三部構成・要旨・主張	文章構成図	「問い」と「こたえ」	事例（具体と抽象）	要点・要約	段落（形式段落（の主語）・意味段落）	題名・題材・話題

表1 説明文の10の観点

各学年、実態に応じて、10の観点を活用し説明文を読み取ることができました。3、4年生の具体的実践を紹介します。

<3年生>「こまを楽しむ」の学習

「はじめ」「中」「おわり」の文章構成で、尾括型の文になっているね。

「中」の部分には、段落ごとに答えと遊び方が書いてあった。

「このように」という言葉の後ろに筆者の考えが書いてあった。（ふりかえりより）

<4年生>「動いて、考えて、また動く」の学習

七段落と八段落にまとめが書いてあると思うかな。

それぞれまとめている事柄が違うんじゃないかな。

八段落には筆者の考えのまとめと、文章全体のまとめが書いてあるね！

「おわり」には、筆者の考えと、文章全体のまとめが書いてある。（ふりかえりより）

【教材の特徴に応じた言語活動の充実】

教材を通過点とし、単元のゴールにおいて、学んだことを活かして児童自身の力で表現することができるよう、単元の構成を工夫します。具体的には、「単元のゴールに向かう途中で何を学んでいるのか」が分かる授業を目指します。

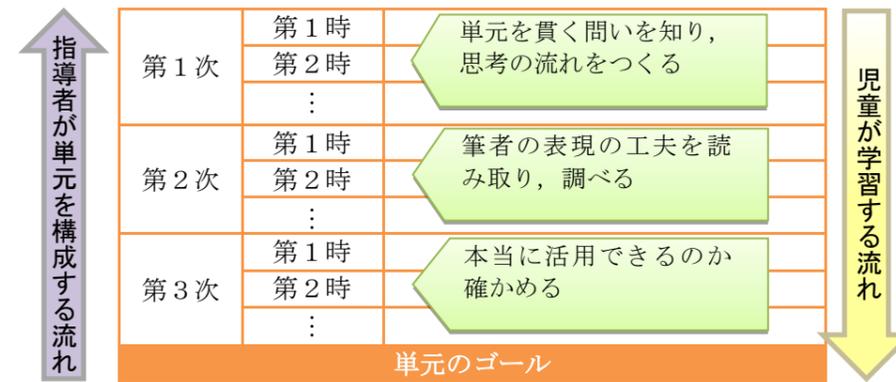


図1 指導者が単元を構成する流れ

指導者は、図1のように単元のゴールから逆向き設計をして単元の構成を考えていきます。第3次で児童が自分の力で文章を書くことができるよう、第2次において教材文を使って付けたい力を明確にし、児童に何を学ばせればよいのかを考えます。

第2次では、教材文を使って学ぶ内容が、単元のゴールに向けて何を学んでいるのかを児童に意識させることが大切です。そのために、単元の学習計画を掲示し、見通しをもって学習に臨めるようにします。下の表2は、6年生「時計の時間と心の時間」の学習の単元計画です。

<6年生>「時計の時間と心の時間」の学習

表2 6年生「時計の時間と心の時間」の学習の単元計画

6年 心理学者になってプレゼンしよう！	
次	学習活動（全8時間）
1	○学習の見直しをもつ。 ・単元計画を立て、単元ゴールの見直しを立てる。 ・語句の意味を確かめながら読む。(1)
2	○「笑うから楽しい」の要旨を捉え、自分の意見をもつ。 ・文章構成と、筆者の説明の工夫をつかむ。 ・要旨を捉え、自分の経験をもとに感想を考える。(2)
3	○「時計の時間と心の時間」の文章構成をつかむ。 ・初めて読んだ感想をもつ。 ・筆者の主張・文章の構成の工夫を捉える。(2)
4	○「時計の時間と心の時間」の要旨を捉え、自分の意見をもつ。 ・事実と感想・意見などの関係を押さえ、筆者の意図を捉える。 ・筆者の主張に対する自分の考えをまとめる。(本時)(1)
5	○「心の時間」をプレゼンする文章を書く。 ・筆者の主張をもとに自分の考える「心の時間」を文章で表す。 ・ポスターを作る。(1)
6	・5年生にプレゼンをし、学習を振り返る。(1)

<1年生>「くちばし」の学習

左の写真は、1年生「くちばし」の学習の様子です。単元のゴールに向かって、クイズを出すために必要な文型を教科書で確認しています。くり返し練習することで、文型を定着させています。

結果・分析

【ふりかえりカードの結果・分析（児童・指導者）】

単元の終わりに児童と指導者が書いたふりかえりカードの集計を表3に示しました。4つの項目について、4段階評価で集計しました。

表3 児童と指導者のふりかえりカードの集計表

質問項目	児童	指導者
① 学習を通して、筆者の考えを読み取ることはできましたか。	3.4	3.2
② 説明文の10の観点をもとに、説明文を読むことができましたか。	3.3	3.2
③ 教材で学んだ表現をもとに、自分の考えを書くことができましたか。 (賛成・反対・根拠など)	3.3	3.6
④ 学習したことをもとに、自分で工夫して発表したり、文に書いたりすることができましたか。 (準備も含む)	3.6	3.6

<児童のふりかえりカードから見る具体的な児童のすがた>

- ②については、児童は、10の観点にあたる言葉や文章にラインを引きながら説明文を読んだりノートにまとめたりするなど、10の観点を意識して自主的に学習することができるようになっていきます。
- ④については、児童は筆者の説明の工夫を参考にして文を書いたり、写真や資料と文章を対応させながら発表したりすることができるようになってきました。

【単元末テストの集計結果・分析】

表4 単元末テスト（7月）の結果

目標値 (%)	80		
学年(年)	1・2	3・4	5・6
達成人数(人)	4(5人中)	5(5人中)	3(7人中)
達成値(%)	71% (12人/17人中)		
目標達成率(%)	88%		

左の表4は、単元末テスト（7月）の結果を整理したものです。国語科単元末テスト（読む）で得点が80点以上だった児童を

80%にするという目標値に対し、71%の児童が達成することができました。

達成人数は低学年と中学年ではほぼ全員達成することができ、目標達成率は、88%になりました。

研究のまとめ

【成果】

- 児童が「10の観点」を活用して、説明文を深く読むことができるようになってきたため、思考力が高まり単元末テストの結果が向上した。
- 指導者が意識して「単元を貫く問い」を設定することで、児童の学習活動に必然性をもたせ、主体的に学ぶことができた。

【課題】

- 言語活動をゴールではなく、再思考の場として活用する。（検証する場）
- 複式学級を活かすために、児童主体で学習を進められる学習リーダーの育成や、異学年交流の場の設定などの工夫に努める必要がある。